



公立大学法人

神奈川県立保健福祉大学

Kanagawa University of Human Services

資料 1

## 公立大学法人神奈川県立保健福祉大学の運営状況について

平成30年 9 月 20 日  
理事長 大谷 泰夫

# 法人の目的

地方独立行政法人法に基づき、大学を設置し、及び管理することにより、保健、医療及び福祉の分野における高度で専門的な知識及び技術を教授研究するとともに、保健、医療及び福祉の分野に関する総合的な能力を有し、**ヒューマンサービス**を実践できる人材及び地域や国際社会において活躍できる人材を育成して、その成果を社会に還元し、もって県民の健康と生活の向上に寄与する

# 沿革

- 平成15年 4 月 神奈川県立保健福祉大学 開学
- 平成19年 4 月 神奈川県立保健福祉大学大学院修士課程 開設
- 平成25年11月 地域貢献研究センター 開設
- 平成29年 4 月 神奈川県立保健福祉大学大学院博士課程 開設
- 平成30年 4 月 公立大学法人神奈川県立保健福祉大学へ移行
- 同 8 月 ヘルスイノベーション研究科 設置認可  
(平成31年 4 月 開設予定)

# 組織 (H30.4.1現在)



## 役員

理事長	大谷 泰夫
副理事長	中村 丁次 (学長)
理事	中島 栄一 (副学長)、村上 明美 (学部長)、白水 眞理子 (研究科長) 鈴木 寛 (東京大学大学院教授・慶應義塾大学大学院教授・神奈川県参与)
監事	中尾 繁行 (弁護士)、嶋矢 剛 (公認会計士)

## 職員の状況 (H30.5.1現在)

(大学職員：常勤)

学長	副学長	教授	准教授	講師	助教	事務局	図書館	計
1	1	34	30	18	18	31	2	135

・常勤職員数 135名 (内、大学教育職 102名) ・非常勤講師 156名 ・契約職員 27名

(実践教育センター：常勤)

センター長	企画教務部	実践教育部	計
1	5	19	25

・常勤職員数 25名 ・非常勤講師 38名 ・契約職員 7名

## ○ 大学のミッション = 「ヒューマンサービス」

「ヒューマンサービス」とは

保健・医療・福祉が人間の直面する多様な問題に全人的に対応し、その成長発達を支援するサービスがそれぞれ固有の機能と役割を果たしながら、専門間の調整を図り、包括的共同目標に向けて連携と両立可能性を深め、誰れをも排除することなく利用者主体のサービスに統合し実践性を孕む理念・方法・システムを構築して、市民参加のコミュニティを基盤とする人間と人類の幸福を追求する新しい文化の創造を目指すパラダイムをいう 阿部志郎名誉学長『ヒューマンサービスの定義』より



言い換えると

どのような人間であれ、誰も排除されることなく、  
一人ひとりが人格を持った大切な人として生かされ、  
生きがいを持ち、その人らしく生きられるように、  
人が、人らしく、他の人を支援していく理念

学長 中村 丁次

## ○ 大学の基本理念

### 1 保健・医療・福祉の連携と総合化

- ・ ヒューマンサービスを実践できる人材の育成

### 2 生涯にわたる継続教育の重視

- ・ 実践教育センターでの在職者への継続教育

### 3 地域社会への貢献

- ・ 地域貢献研究センターを中心とした開かれた大学づくり



平成15年4月の開学以来、6,000人を超える専門人材を輩出

第1期生が卒業してから12年

卒業生が組織の核（チーム医療・地域の保健福祉のリーダー）になりつつある

## 平成30年度当初予算

(単位：千円)

項目	30年度予算額 (A)	29年度予算額 (B) (県)	前年度対比	
			増減額 (A-B)	比率 (A/B)
支出	<b>3,084,368</b>	<b>2,299,120</b>	<b>785,248</b>	<b>134.2%</b>
教育研究経費	334,934	268,716	66,218	124.6%
人件費	1,917,457	1,709,309	208,148	112.2%
一般管理費	400,422	266,176	134,246	150.4%
施設整備費	401,480	24,844	376,636	1616.0%
受託研究費等経費 及び寄付金事業費等	30,075	30,075	0	100%
収入	<b>3,084,368</b>	<b>2,299,120</b>	<b>785,248</b>	<b>134.2%</b>
運営費交付金 (29年度は相当額)	2,334,282	1,538,830	795,452	151.7%
自己収入	720,011	730,215	△10,204	98.6%
受託研究等収入 及び寄付金収入	30,075	30,075	0	100%



## 平成30年度 入学者選抜状況（平成30年4月入学者）

### 学部 一般入試及び特別選抜

学科	募集人員	出願者			受験者 (A)			合格者 (B)			入学者			合格倍率 (A/B)	入学者県内外	
		男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計		県内	県外
看護	90	19	348	367	16	248	264	4	95	99	4	87	91	2.7	68	23
栄養	40	10	145	155	9	113	122	0	42	42	0	40	40	2.9	30	10
社会福祉	60	34	123	157	25	77	102	9	55	64	9	53	62	1.6	44	18
リハビリ 理学療法学専攻	20	28	60	88	27	59	86	5	16	21	4	16	20	4.1	12	8
リハビリ 作業療法学専攻	20	12	29	41	11	28	39	5	16	21	4	16	20	1.9	14	6
合計	<b>230</b>	103	705	<b>808</b>	88	525	<b>613</b>	23	224	<b>247</b>	21	212	<b>233</b>	<b>2.5</b>	168	65

### 学部 編入学

学科	年次	募集人員	出願者			受験者 (A)			合格者 (B)			入学者			合格倍率 (A/B)	入学者県内外	
			男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計		県内	県外
看護	3	8	1	8	9	1	7	8	0	0	0	0	0	0	-	0	0
栄養	3	4	0	18	18	0	16	16	0	2	2	0	2	2	8.0	0	2
社会福祉	2	3	2	1	3	2	1	3	2	1	3	2	1	3	1.0	0	3
合計		<b>15</b>	3	27	<b>30</b>	3	24	<b>27</b>	2	3	<b>5</b>	2	3	<b>5</b>	<b>5.4</b>	0	8

大学院博士前期課程（募集人員：20名）

領域	出願者			受験者 (A)			合格者 (B)			入学者			入学者県内外	
	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	県内	県外
看護	0	10	10	0	10	10	0	8	8	0	8	8	8	0
栄養	3	6	9	3	5	8	3	3	6	3	3	6	5	1
社会福祉	2	6	8	2	6	8	1	4	5	1	4	5	5	0
リハビリテーション	6	4	10	6	4	10	5	3	8	5	3	8	8	0
合計	11	26	<b>37</b>	11	25	<b>36</b>	9	18	<b>27</b>	9	18	<b>27</b>	26	1

大学院博士後期課程（募集人員：5名）

	出願者			受験者 (A)			合格者 (B)			入学者			入学者県内外	
	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	県内	県外
	4	1	<b>5</b>	4	1	<b>5</b>	4	1	<b>5</b>	4	1	<b>5</b>	3	2

## 学部、大学院及び実践教育センターの教育目標

### 保健福祉学部

- ・ かけがえのない存在である「ひと」を深く理解するとともに、豊かな人間関係を築く力を培う
- ・ 人々のニーズやコミュニティが抱える様々な課題を広い視野で考察、分析し、市民との協働により解決する力を培う
- ・ 人々にとって最適な保健医療福祉サービスを提供するため、常に科学的根拠に基づく判断力を持ち、高い倫理観や人権意識を基盤とした実践力を培う
- ・ 保健・医療・福祉に関する幅広い知識や技術を理解するとともに、連携して協働できる力を培う
- ・ 専門領域における基礎的知識や技術を十分理解するとともに、主体的に学問を探究し、真理を追究する姿勢を培う
- ・ 国際的な視野に立ち、コミュニティを基盤として広く世界に貢献する力を培う

### 大学院保健福祉学研究科 博士前期課程

- ・ 保健・医療・福祉の諸問題について、現場で実践した内容を体系的に整理し、社会へ発信できる能力を持つ人材の育成
- ・ 行政、施設、地域などの現場において、リーダーまたは管理者として活躍できる人材の育成
- ・ 現場で働く社会人を受け入れ、実社会で身につけた実践的な知識・経験を学問的に検証しつつ、さらにこれを高めていく人材の育成

### 大学院保健福祉学研究科 博士後期課程

- ・ 保健福祉分野に関わる深い見識を備え、ヒューマンサービスの実践に対する倫理観と使命感をもって、サービスやケアの開発とその効果検証、保健福祉人材の育成や政策提言、健康寿命の延伸等に寄与する研究に取り組む研究者を育成する
- ・ 保健福祉分野の諸問題について学際的かつ国際的な視点で現象を整理し、研究成果を活用できるとともに、ヒューマンサービスの実践を先導できる教育者を育成する。
- ・ 保健福祉分野の専門的知識や科学的根拠をもって多職種間のマネジメントや、連携と総合化を牽引するとともに、研究能力を発揮して実践現場に変革を起こすことのできる実践者を育成する

### 実践教育センター

- ・ 職業倫理や人権意識を磨くなど、より深く人を理解するための高い教養を身につける
- ・ 技術の高度・専門化や多様なニーズに対応するための専門的な知識・技術の向上を図る
- ・ 関連分野に関する幅広い知識や関連職種との連携を実践できる能力の向上を図る

## 中期計画期間（平成30年度～35年度）における数値目標と今年度の進捗状況

項目		中期計画 数値目標	平成30年度計画 数値目標	8月までの 進捗状況	年度計画 全体での達成状況	(参考) 昨年度実績	
教育	就職希望者就職率	学部	100%	100%	—	99.6%	
	国家試験合格率	看護師	100%	100%	—	平成31年3月に確定	100%
		保健師	100%	100%			86.7%
		助産師	100%	100%			100%
		管理栄養士	100%	100%			95.5%
		社会福祉士	75%	75%			64.2%
		精神保健福祉士	100%	100%			100%
		理学療法士	100%	100%			100%
		作業療法士	100%	100%			100%
		日本看護協会認定 審査合格率	認定看護管理者	75%			75%
	感染管理認定 看護師		85%	85%	100%		

項目		中期計画 数値目標	平成30年度計画 数値目標	8月までの 進捗状況	年度計画 全体での達成状況	(参考) 昨年度実績	
教育	授業評価 (実施率)	学部	100%	100%	—	前期・後期で 取りまとめ	92.6%
		大学院	100%	100%	—		100%
		実践教育センター	100%	100%	—	年間で取りまとめ	100%
	授業評価 (5段階中4以上)	学部	80%	80%	—	前期・後期で 取りまとめ	79.2%
		実践教育センター	80%	80%	—	年間で取りまとめ	86.7%
	図書館利用者数		90,000人	81,500人	31,252人	やや遅れている	76,619人
	FD研修実施回数		72回	12回	9回	順調に推移	16回
	受験倍率	学部	2.5倍	2.5倍	—	平成31年3月に確定	2.7倍
		大学院 (博士前期課程)	1.5倍	1.5倍	—	平成30年10月に確定	1.8倍
		大学院 (博士後期課程)	定数確保	定数確保	—	平成30年10月に確定 ※2次募集がある場合 は平成31年3月	1.0倍
大学説明会実施回数		390回	65回	56回	順調に推移	71回	

項目		中期計画 数値目標	平成30年度計画 数値目標	8月までの 進捗状況	年度計画 全体での進捗状況	(参考) 昨年度実績
学生への 支援	就職説明会参加病院・施設数	540施設	90施設	<b>99施設</b>	<b>達成</b>	96施設
	進路ガイダンス実施回数	18回	3回	<b>2回</b>	<b>順調に推移</b>	3回
研究	学術論文、著書及びその他の 著作件数	2,100件	280件	—	<b>平成31年3月に確定</b>	235件
社会貢献	公開講座・市民大学開催回数	85回	10回	<b>8回</b>	<b>順調に推移</b>	8回
	高大連携プログラム (高校生向け出張講座)等実 施件数	90件	15件	<b>10件</b>	<b>順調に推移</b>	23件
	産学官連携事業件数 (行政機関及び民間企業との 連携事業件数)	80件	10件	<b>5件</b>	<b>順調に推移</b>	9件
	海外大学等との交流事業件数	45件	5件	<b>1件</b>	<b>順調に推移</b>	4件
自己収入の 増加	科学研究費補助金の申請件数	300件	40件	—	<b>平成31年3月に確定</b>	27件
社会的責任	人権啓発に係る研修等の実施 件数	18回	3回	<b>2回</b>	<b>順調に推移</b>	3回
	ハラスメントに関するアン ケート調査の実施回数	6回	1回	<b>0回</b>	<b>実施予定</b>	1回

## 進捗状況まとめ

- 進捗の集計が可能な項目については、全体的に順調に推移している
- 年度終了時に一括取りまとめとなる項目の中では、  
「**学術論文、著書及びその他の著作件数**」  
「**科学研究費補助金の申請件数**」は、達成に向け鋭意努力

## 大学を取り巻く環境は刻々と変化

- 急速に進む少子高齢化
- グローバル化と情報化の進展
- 保健、医療及び福祉サービスの高度・複雑化
- 保健、医療及び福祉人材の不足
- 人生100歳時代、大学全入時代の到来 など



### 様々な課題に挑むことにより、社会からの期待に応えていく

- ・ ヒューマンサービスというミッションを持った専門職の養成と、現任者の専門能力の向上に寄与し得る教育
- ・ 社会の多様なニーズを踏まえた研究の充実・継続
- ・ 保健、医療及び福祉に関連した分野において社会システムの革新（イノベーション）を担う高度な専門人材の育成



## 平成31年4月には、新たな大学院（ヘルスイノベーション研究科）を開設予定

平成30年8月、文部科学省から設置の認可を受けた。

- 既存の公衆衛生学の基本分野に加え、保健医療に関するテクノロジー、ビジネス、行政政策など超高齢社会の課題を解決する能力を養う教育課程を、日本語・英語で実施する
- ヘルスイノベーションに関して、学問分野や職域を超えた**理論構築**と**研究成果の発信**を行い、同時に、日本のみならず世界に向けた神奈川県**のシンクタンク機能**となることを目指す
- 卒業生は医療現場、民間企業、行政、国際機関等あらゆる場での活躍が期待される

### ヘルスイノベーション研究科の特徴・コンセプト

### 見込まれる役割・効果

#### 次世代を牽引する 人材育成

- ヘルスケア分野における社会的な課題解決に取り組みたい人材を多様な領域から受け入れ

#### ヘルスイノベーション

- ヘルスイノベーションに関する理論構築と最先端の研究、研究成果の発信
- 国家戦略総合特区のフィールドを用いた行政、企業、県民との協力

#### シンクタンク機能

- 新研究科で実施した教育研究の成果を神奈川県  
の政策に活用
- 研究成果の社会実装

- 医療・保健・福祉・医療行政・臨床研究などの場で活躍できる人材を輩出
- 例) 医療機関、行政官、研究者、ヘルスケア関連産業のビジネスパーソン

- 研究開発から新産業を創出するヘルスイノベーション拠点としての発展

- 県民の健康寿命延伸
- 従来の医学、公衆衛生学を超えた課題解決のための新たな学問・研究領域を生み、発展させるための環境構築

## キャンパスの特性を活かした教育・研究体制（平成31年4月以降）

**横須賀キャンパス**（保健福祉学部・保健福祉学研究科・地域貢献研究センター）  
看護、栄養、社会福祉、リハビリテーションの専門職  
（Professional・Interprofessional）の教育・研究及び地域貢献

**川崎キャンパス**（ヘルスイノベーション研究科）  
高度専門家（Expert）の教育・研究  
未病という新しい健康観を軸にヘルスイノベーションの創造

**横浜キャンパス**（実践教育センター）  
現任者教育・継続教育

**3キャンパスの連携と協働により、ヒューマンサービスの実現とともに  
世界に類を見ない新たな保健・医療・福祉系大学を目指していきます**